

おじいちゃん
おばあちゃん



オンラインゲーム スマホ利用の低年齢化 予期せぬ小・中学生の高額課金トラブル

おとうさん
おかあさん

事例1

今月の携帯の通信料に身に覚えのない9万円の請求があった。7歳の子どもが祖母のスマホを使ってオンラインゲームで課金していたことが分かった。



大人のスマホをそのまま渡して大人のアカウントを使わせていた

画面ロックしていなかった

キャリア課金の上限額が10万円になっていた

親が操作したパスワードを覚えていた

事例2

中学生の息子が、父親の使わなくなったスマホを使って、お小遣いの範囲でコンビニのプリペイドカードで課金していたが、いつの間にか父親のクレジットカードで50万円以上も課金していた。初期設定時にカード番号が登録されていたようだ。



決済パスワードを設定していない

決済完了メールを見落としていた

端末にクレジットカード番号が登録されていた

家庭用ゲーム機を親のアカウントで使わせていた

保護者のアカウントを子どもが利用してオンラインゲームでアイテム等を課金(購入)した場合、子どもが課金したと証明することが難しく、親の管理責任に問題があると考えられて、未成年者取消や返金が認められないケースがあります。

クレジットカード、端末の課金設定、パスワードの管理等に注意

携帯電話会社へ通話料金と一緒にまとめて支払う
キャリア決済の上限額を低く設定する

購入する度にパスワード入力を求める設定にする

一度登録されたクレジットカード情報は、アカウントの支払い方法の設定に保存されているため注意する

※カードの名義人が管理責任を問われます

課金設定の確認
App内課金(iPhone)
「許可」する・しない
アプリ内課金(Android)
「認証」必要・不要

購入時の決済完了メールをよく確認する



お金がかかるとは思わなかった…

年齢に応じて「自分でコントロールする」ことも大事!

お小遣いの範囲でプリペイドカードを利用するのも1つの方法です。

※課金設定を「許可」した場合は、クレジットカード登録情報の削除、キャリア決済の上限額の設定等は忘れずに!

利用するルールを家族でよく話し合しましょう

子どものアカウントを作り、フィルタリング(ウェブの閲覧制限)

ペアレンタルコントロール(保護者側が子どもの利用状況を把握し遠隔管理できる機能)を活用しましょう。

※上記の方法ですべての課金を防ぐことができません。設定等は携帯電話会社へ相談しましょう。

